



原罪



山口亜哉子

原罪 / 音 / 陶醉.....	2
泡沫 / 新世界 / 桜.....	3
異郷 / 霧 / 歴史 / 天与.....	4
南十字星 / 祈望.....	5
雪花 / 落花 / 臨終.....	6
天啓 / 暗夜.....	7
通夜.....	8
自虐 / 談笑 / 窓.....	9
読書 / 消去 / 心奥.....	10
桃花源 / 躁心 / 詫言.....	11
日常 / 喪失 / 蒲公英.....	12
回歸 / Memento Mori / 恐怖症.....	13
幻想.....	14

原罪 ゲンザイ 2001.5.26(sat)

わたくしは
生まれいづる前に
母様の胎内で
わたくし以外の全ての可能性を
殺して
この世にあらはれたのです
ですから
死ぬことはゆるされないのです

音 ネ 2001.5.26(sat)

わたくしの耳にとどく世界は
あなたの耳にとどく世界と
けしておなじではなく
そんな当たり前のことを
わたくしは
聞こえぬ片方の耳に知らされるのですが
ならばこそ
聞こえぬわたくしの耳にのみとどく世界も
どこかにあるのではないかと思ふのです

陶醉 トウスイ 2001.5.26(sat)

過去の傷は甘美な痛みです
まるで免罪符のやう
いたづらに見せびらかして
哀れみを乞ふのはおやめなさい

泡沫 ウタカタ 2001.5.27(sun)

この世は既に夢なのです
喜びも悲しみも
時のまにまに過ぎ去つてゆくのです
なのに
さらに夢に逃げて何になりませう？

新世界 シンセカイ 2001.5.27(sun)

住み慣れた処を離れることは
そこはかたなく淋しゅうござりますが
新しき地にて思ふのは
此処もやがて
わたくしの中に深く根をはり
泣きたくなる程なつかしい
ひとつの故郷になるといふことです

桜 サクラ 2001.5.27(sun)

花の下にて歌へ
そして笑へ
この世が既に夢ならば
楽しき夢を見ようではないか

異郷 イキヤウ 2001.6.4(mon)

目を閉じればいつでも同じ闇
此処と彼処と何の違いがありません
ただひそやかに眠るのみでござります

霧 キリ 2001.6.8(fri)

外は真白き闇でござります
わたくしの心も鬱々と晴れませぬ
けれども其れは水と大気の所為などではなく
理由は何処を探しても見つかるまい

歴史 レキシ 2001.6.19(tue)

両手を広げ
満天の星を抱きしめて
南の空の下で踊りませう
百二十億年が手の中で輝き
それは明日へとつながってゆくのです

天与 テンヨ 2001.6.25(mon)

此の
聞こえぬ片方の耳の分だけ
わたくしは
やさしくなれるのでせう

南十字星 ミナミジフジセイ 2001.6.27(wed)

——僕もうあんな大きな暗の中だってこはくない
きっとみんなのほんたうのさいはひをさがしに行く——

カムパネルラは何処にゐますか
ほんたうのさいはひはありますか
天に刻まれし十字架は
永遠の問ひを投げかけるのです

——宮沢賢治『銀河鉄道の夜』より一部引用——

祈望 キバウ 2001.6.27(wed)

あれはいつのことでしたか
何処かで読んだものがたり

女の子がたづねました
流れ星にはどうやって祈ればいいのか
消えるのが早すぎて
願ひ事を最後まで言へないの

お父さんはこたへました
ただひとこと
「祈る」と
言へばいいんだよ
そのひとことに
すべての想ひをこめて

雪花 セツクワ 2001.12.4(tue)

ひら ひら
天使の羽が舞うやうに
世界を静かに包んでいつて
全ての罪を白く染めて

落花 ラククワ 2001.12.4(tue)

冬にも桜は散るのです
ひらひら ひらひらと散るのです
天の花弁がやはらかに積もる
まぶしくて何も見えない
あゝ わたくしも
この白に融けてしまひたい

臨終 リンジュウ 2001.12.15(sat)

誰からも憎まれず生きてゆくのは
難しきことやもしれませぬが
せめて
誰も憎まらずに死にゆければ
素晴らしきことをござりませう

天啓 テンケイ 2002.1.2(wed)

永遠に故郷にしがみつことはできぬのだと
永遠に子供で在ることはできぬのだと
永遠に誰かと生きることはできぬのだと
雷光のやうに気づいたのです
そのときわたくしは全てを失ひ
さらりと自由になりました
所詮わたくしはひとりなのです

暗夜 アンヤ 2002.1.17(thu)

深夜
ゆるやかにわき起こる負の感情を書きつゞり
書きつゞり
誰かに投げつけたくもなるのでござりますが
わたくしの為に他者を不快にしてもどうしやうもなく
やり場なき思ひを書いては消し
書いては消し
闇は深まるばかりで
そんなふうには夜は過ぎてゆくのです

通夜 ツヤ 2002.2.15(fri)

祖父の安らかな死顔と

その場にゐない者を罵る誰かの声

わたくしは安らかに死ねますか

誰も憎まずに死ねますか

それはきつと無理でせうね

せめて祖父の耳に届かぬのが幸ひでありました

自虐 ジギャク 2002.2.16(sat)

あの頃

自分の全てを否定してゐたのは事実でござります
日々自らの非をあげつらひ 貶め
自らの身を痛めつけ 罰し
本気で死ぬ気などなくせに
生まれてきたことを呪うてをりました

けれども

他人から否定されたくはなかつたのです

談笑 ダンセウ 2002.2.17(sun)

コトバハツルギ
スルドイツルギ
突イテ刺シテ切り刻ンデ
傷ツイタ心ハ硝子けーすノ中
キミニハ見エテキナイノデスネ
エ> ワタクシニモ見エマセヌ
キミノ心ハ見エマセヌ
相手ノ痛ミハ気ヅカヌマ>ニ
ヤサシイツルギヲ投ゲアイマセウ
微笑ミナガラ傷ツケマセウ

窓 マド 2002.2.27(wed)

夜景は好きでござります
地面が見えませぬから
吸ひ込まれませぬから
あのアスファルトに叩きつけられたらどのやうであらうかと
想像致しませぬから

読書 ドクシヨ 2002.3.13(wed)

夜の虚ろには本がよく似合ひます
ぽかりと空いた穴に文字が浸みてゆくのです
今宵はどれに致しませうか
長い話がよいですね
楽しい話がよいですね
今だけ 全てを忘れさせてくださいまし

消去 セウキヨ 2002.4.15(mon)

王様の耳は驢馬の耳
王様の耳は驢馬の耳
穴の中に囁いてみても
お喋りな葦は風に乗つて唄ふのです
誰にも云へぬ秘密はどうすれば良い？
独りでは耐へ難い事実はどうすれば良い？
決して明かすこと叶はぬのなら
deleteして仕舞へれば良いのに

心奥 シンアウ 2002.4.17(wed)

わたくしが
誰にも云はずにゐることの量を思へば
どれほどの人が
どれほどの事を隠して
日々 生きてゐるのでありませう
嘘ばかりとは申しませぬが
ただ面を撫せて過ごしてゐるのでござります

桃花源 タウカゲン 2002.4.21(sun)

此の天に近き処で
わたくしは
閉じ籠つてゐたいのやもしれませぬ
何も見ず
何も知らず
傷つかぬものだけに
包まれてゐたいのやもしれませぬ

躁心 サウシン 2002.4.24(wed)

今宵も耳鳴りは絶ゆることなく
夜の深閑に増幅されるが如
果てなき音圧に神経は晒され
眠りは未だ訪れぬのか

詫言 ワビゴト 2002.5.23(thu)

わたくしを傷つけたと思ふのでしたら
どうぞ謝らないでくださいませ
思ひ出したくないのでござります

日常 ニチジャウ 2002.5.27(mon)

そろそろ一月半になりますね
えゝ 何の問題もござりませぬ
まっすぐな音とでも申ませうか
朝も 昼も 夜も
わたくしの右側で
絶え間なく鳴つてみるだけでござりますよ
もう慣れて仕舞ひましたから

喪失 サウシツ 2002.5.27(mon)

光が
闇を消し去るやうに
音は
静寂を奪心のです

蒲公英 タンポポ 2002.6.4(tue)

ふはり ふはり
真白な綿毛が空に舞ふ
何故でせうね
あれが耳に入つたならば
音を失ふと信じてみて
耳をふさいでは逃げ回つた
幼いあの頃

回帰 カイキ 2002.8.29(thu)

いつの日か わたくしは
この蒼を目指すのでせう
造られた浜でも
泳げぬ海でも
ここがわたくしの還る処

Memento Mori メメント・モリ 2002.9.25(wed)

二十年後か 来年か
それとも明日かはわかりませぬが
わたくしが逝くその日まで
この耳は鳴り続けるのでせう
さう思へば
今、は常にその日につながる

恐怖症 キョウフシヤウ 2002.11.19(tue)

光る刃を目にすると
胸に突き立てたくはなりませぬか

高き処に立つと
身を躍らせたたくはなりませぬか

濁った水を見下ろすと
呑み込まれたたくはなりませぬか

幻想 ゲンサウ 2002.11.22(fri)

誰も本当のわたくしを理解してはくださらぬ

それは至極当然のことです

誰が「本当の自分」を表現できますか？

一言 口にするだけでも

一言 紙に綴るだけでも

言葉を選ばぬ者が何処にをりませう？

それ即ち 自らを演出しているのではござりませぬか

誰にも見せられぬものを

理解して下さる筈がござりませぬ

原罪

<http://p.booklog.jp/book/52099>

著者：山口亜哉子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/ayaapril/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/52099>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/52099>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ